

「税金の大切さ」

福岡市立三筑中学校

中村 綺花

1945年8月6日、8月9日。これを見れば、誰しものが「日本に原子爆弾が投下された日」そう考えるだろう。

私の祖母はこの日、長崎で恐ろしい原爆を受けて、被爆者となった。しかし、不幸中の幸いにも、祖母は爆心地から少し離れた、間に山があったところにいたため、背中にあざができただけで、他に影響はほぼなかったようだ。

そんな祖母は、一昨年に亡くなった。原因は癌であった。私は福岡県に住んでいるため、長崎にいた祖母の最期の姿を見ることはできませんでした。それから、身近な人の死というものを私は小さい頃から長らく経験していなかった。だから、その知らせを聞いたとき、悲しむでも悔しむでもない、妙な感情で頭が埋めつくされた。その後、祖母を目の前にしたとき、涙が溢れた。

「人は死ぬんだ。」

当たり前のことだが、この歳になってからこういう経験を初めてした私にとっては、やっと分かったことだったのかもしれない。

その後、私の伯父と私の母が話をしている時に、「原爆手当」という言葉を耳にした。調べてみると、「原爆手当」とは、原子爆弾投下により、被爆した人に対して「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」に基づき交付される手帳だそうだ。また、所定の要件を満たした者は、医療費などの支援を受けとることが出来る。私は祖母が医療費を支援してもらっていると聞いていたが、原爆手当によるものだと知らなかった。

さらに、原爆手当は被爆者の中には、原子爆弾の傷害作用のために生活能力が劣っていたり、原子爆弾に起因する病気やけがのために特別な出費を必要とする人が多かったりすること等に基づき、設けられた制度だそうで、私は納得した。

そして、原爆手当も税金が使われていることを知った。

この他にも、医療制度で多くの命が救われたり、身近にも学校の机や教科書だったり、税金は私たちが生活しやすくする上で大切なものなのだと思った。

これから私は、まず、身近に学校の机や教科書を大切に使用することを心がけて、納税者の方々に感謝して、私もその一員になるためにも、しっかりと税金を納めることのできる人になりたい。